

沖縄・東村 米軍の事故相次ぐ



住民の生活犠牲

米軍北部訓練場がある沖縄県東村(ひがしそん)で、住民生活を脅かす米軍による事故が相次いでいます。基地あるがゆえの被害に、住民の怒りの声が上がっています。

米軍車両が燃料タンク、水筒と部品を落下させました。防衛省沖縄防衛局は「車両から物資が落下しました理由について確認中」としています。

落ちていた燃料タンクを発見した仲嶺真文(なかみみ)村議は直前に、荷台をけん引する米軍大型車両3台とすれ違っていました。

燃料タンクの中には、液体が入っていました。車やバイク、人に接触していたら、惨事を招いた可能性があります。仲嶺村議は「米軍の安全意識の低さを感じる。重大事故を起こす物を

落とした固体おかしい」と憤ります。集落を取り廻むように、6カ所のヘリパッド(着陸帯)が建設された高江(たかご)区では、米軍被害が続いているです。

住民の重要な生活道路である村道や農道を、米軍大型車両がわが物顔で通行。農地が踏み荒らされたり、イノシシよけの柵が破壊されたりしています。

車両が通るのも危ない」と訴えます。

危険隣り合わせ

仲嶺久美子区長は「道幅が狭く見通しの利かない力一歩も多い。高齢の農家は、ふだん畑に行くときも気付けていたのに、大型車両が通るのも危ない」と訴えます。

村は、米軍が村道を通らないよう再三要請していましたが、聞き入れられていません。仲嶺区長は「基地周

(まさつぐ)村議は、米軍垂直離着陸機オスプレイなどが新設ヘリパッドをフル活用し、集落上空で旋回を繰り返して深夜まで騒音をまき散らす実態を告発します。

14日、東村の国道の路上に、米軍大型車両に踏み荒らされた農地=14日、沖縄県東村高江



米軍大型車両に踏み荒らされた農地=14日、沖縄県東村高江

「人殺しの訓練をしている軍隊が隣にいることが恐ろしい。米軍がいるだけで生活が犠牲になる。そういうことのない社会を目指さなければならぬ」と伊佐村議は力を込めます。

(柳沢哲哉)